

## まとめ

### 保護者アンケートから ☆がんばっているところ

- ・縦割り班活動や学年の枠を超えた活動があり、学年問わず仲よくできている。
- ・農業体験は、とてもよい体験である。
- ・学校生活における感染症の拡大防止対策がありがたい。
- ・コロナ禍での工夫した行事の実施（運動会・学芸会・水害想定避難訓練）がよかった。
- ・子どものこと等での相談がしやすい。また、対応が早い。
- ・家庭学習への見取り、月例テストの取り組みがありがたい。
- ・マメールやおたより等での連絡に、非常に助かっている。

(主な内容)

### 保護者アンケートから ★さらにがんばってほしいところ

- ・登下校時のあいさつをしっかりとできるといい。下校時の見守り強化も行ってほしい。
- ・宿泊体験学習を行ってほしかった。
- ・学力を伸ばしてほしい。
- ・小中学校で、同様の行事を同じ日にできないものか。
- ・遊具やホームページを更に充実してほしい。

(主な内容)

### 学校から 経営のまとめ（成果と課題）

- ・「学級力会議」を定期的に継続する児童による主体的な学級づくりと、振り返りを中核に据えた授業づくりを行ったことで、どの学年も互いに学び合う学級風土となっている。
  - ・心のアンケートの定期的な実施、チーム体制でのケース会議の充実、個別に対応した迅速な指導等、全職員で児童の成長を後押ししてきたことで、落ち着いた学校生活を送ることができた。
  - ・工夫した読書指導により、貸出冊数が増加し、児童がめあてを持って読書に取り組んだ。
  - ・感染症対策を講じながら、工夫して様々な行事を実施し、児童の体力や感性、安全意識を高めることができた。また、その様子を、学校便りの地域回覧や学級便りの発行、HPの更新、緊急配信メール等で発信し、保護者や地域からの理解と協力を得ることができた。
- 確かな学力を育成する授業改善や、交流の方法の工夫と機会の確保等、児童の健康安全意識を高めつつ、可能な限りの学習活動や体験活動を行うようにする。
- 家庭での読書の習慣化が図られるように工夫した指導を継続していく。
- 一人1台の端末等のより効果的な活用や指導の具体策を講じ、計画的な指導を行う。

### 学校関係者評価委員会のまとめ（成果と課題）

- ・今は、学校生活の中で子ども同士のつながりが保たれる。大富小は、都市型ではなく、教職員からも地域からも教えてもらえる学校だと言える。
  - ・コロナ禍ではあるが、これまでのように「これならできる」という活動を行ってほしい。地区の敬老者への手紙はよかったので、そのようなかたちで地域とつながってほしい。また、新型コロナウイルス感染症に係る誹謗中傷やいじめについての指導がよい。
  - ・地域等との連携をこれからも大切にしてほしい。学校は、防犯ボランティアとの連携もうまくとれているのではないかと、民生委員児童委員との会議でも話題になった。
- 読書習慣や生活リズムの確立等、アンケートで保護者から「(あまり)あてはまらない」との回答の割合が高いところの検討をお願いしたい。
- 地域へのあいさつの声が小さくなった。あいさつをいつもしていれば、あいさつのない時にその子どもの異変を感じることができる。また、登下校等の見守りの参考になる情報があるとよい。
- 安全やリスクの指導も充実させながら、ぜひICT教育を推進してほしい。

## 学校評価報告書

本年度の学校教育目標を受けて、「経営の重点及び具体策」を16項目設定し、具体的実践を行ってきました。12月にアンケートを実施して保護者の方々からご意見をいただき、その結果をまとめました。また、教職員が現状分析して「成果と今後の課題・対策」を一覧表にし、2月4日に学校関係者評価委員（区長協議会長・公民館長・市議会議員・民生委員児童委員代表・婦人会会長・PTA会長・PTA副会長）からご意見をいただきました。ご意見をもとに、学校評価報告書を作成しました。今後とも、大富小学校へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



# 経営の重点及び具体策

## ・学び合える学級風土へ

### ・「かかわり」から「つながり」へ

## ・読書習慣の確立へ

### 心豊かで思いやりのある子どもを育てるために（徳）

- ① 学年・学級経営
- ② 道徳指導
- ③ 教育支援
- ④ かかわりを大切にした活動
- ⑤ 地域との双方向の交流



### 自ら考え互いに学び合う子どもを育てるために（知）

- ① 探求型学習の視点から主体的・対話的で深い学びの実現
- ② 校内研究の推進
- ③ 読書活動の充実
- ④ 外国語活動教育の充実
- ⑤ 情報教育の充実



### 心身ともに健康でがまん強い子どもを育てるために（体）

- ① 「いのち」の教育の推進
- ② 教科体育を核とした体力・運動能力向上の取組
- ③ 校内外の積極的な生活指導の充実
- ④ 教育相談活動の充実
- ⑤ 幼保小中連携教育の推進
- ⑥ 環境教育



学校評価報告書			
学校教育目標【自己肯定感を高め 正しい判断力と感性で 主体的に行動できる子どもの育成】			
教育目標	経営の重点	重点項目	成果(○) 課題(□)・今後の対策
心豊かで思いやりのある子どもを育てるために（徳）	学び合える学級風土へ（学力の基盤）	① 学年・学級経営 ・授業を中核にした学級経営の充実 ・組織の対応 ・多様な授業形態の取り入れ ・家庭との連携 ・いじめ不登校の防止 ・Q-Uの活用 ・子どもと共に図る学級力向上 ・ソーシャルスキルの計画的実施	○運動会や学芸会など一つの目標に向かってみんなで力を合わせて取り組むことで達成感や満足感を得ることができた。○学級力会議を継続し、めあてを立てたり振り返りをしたりする中で、自分たちでよりよくしようとするサイクルが定着してきている。□QI結果から学級全体の満足度や交友関係等に今後も気を配りながらよりよいクラスづくりを考えていきたい。
		② 道徳指導 ・「考え議論する道徳」への一層の改善 ・道徳的判断力、心情、実践意欲	○昨年までの研究を引き継ぎながら、道徳ノートを活用したり、切り返しの発問等を工夫したりしながら授業づくりに取り組むことができた。○コロナ禍において、差別や偏見を防ぐための指導を重点とした授業も行うことができた。
		③ 教育支援 ・組織的な支援の充実 ・特別支援教育の研修 ・学習環境づくり	○学習支援の先生方と連携し、学習形態を工夫したり、子どもの学びの様子を共有したりしながら、個に応じた学習支援ができた。落ち着いた学習に向かう子や意欲的に問題に取り組む子が増えた。□単学級で教室環境がせまく、掲示や用具の精選だけでは限界がある。□3年生は2クラスに分けたことで落ち着いた学習環境になったが、担任の先生や教科専科が入ってくださる先生の負担が大きい。来年も可能なか。
		④ かかわりを大切にした活動 ・縦割り班活動 ・ボランティアや奉仕活動	○感染予防対策を取りながら縦割り班遊びを行うことで、学年を超えた楽しい交流の時間をもつことができた。○各学年の役割を意識して清掃活動に取り組むことができた。・スマイルタイムに対する子どもたちの目的意識を共有させるため、計画委員会を中心に放送や掲示板で呼びかけをしていきたい。
		⑤ 地域との双方向の交流 ・地域に発信する活動 ・地域の先生の積極的活用 ・学校だよりHP等の発信 ・学童保育所との連携	○百姓寺子屋の皆さんにご協力いただき、貴重な体験をすることができた。3年生は地域に取材し、消防団のこと等を教えていただいた。□クラブ活動が実施できず、地域との交流が限定された。例えば社会の授業の中でお茶等の伝統文化を教えていただくなど、手立てを考えたい。
自ら考え互いに学び合う子どもを育てるために（知）	「かかわり」から「つながり」へ（社会性の基盤）	⑥ 探求型学習の視点から主体的・対話的で深い学びの実現 ・課題提示と振り返りの充実 ・基礎基本の充実 ・自力解決の時間やペア少人数による対話 ・資質能力の明確化と教育活動の質向上 ・家庭学習の習慣化	○探求型の授業の見直しを図られていることを研修した。自分事としての課題設定にこだわるあまり、学び合いが不足したり、まとめ振り返りが取れなかったりすることが課題であることである。その点から考えると、本校はまとめ振り返りに継続的に取り組んだことは有意義なことだったのではないかと、何が分かって、何が分かっていないのかを自己認知し、家庭学習につなぐような子どもにしたい。
		⑦ 校内研究の推進 ・学び合い高め合う授業づくり ・学力向上 ・現職研修の充実	○学びの振り返りを授業改善の視点としたことで、子どもの学びに向かっている姿勢や次の学びへとつなげる姿を多く見取ることができ、教職員で共通意識を持ち研修することができた。また、授業改善から家庭学習への取り組み方も広がったことが何よりの成果である。・自分の学びを振り返る力を引き続き育て、学びに向かう学力や力向上へとつなげていく。
		⑧ 読書活動の充実 ・朝読書の徹底 ・読み聞かせと家庭での読書奨励（創立130周年関連）	○創立130周年とタイアップした大富賞（130冊達成）の取り組みにより、学校全体の読書量を増やすことができた。○図書室の割り当てを定めたことで、図書を借りる習慣が身に付いてきた。○読み聞かせや読書月間の企画により、本により親しむ機会を作ることができた。□「まじゅっカード」に読書の項目を入れ、図書を家に持ち帰る習慣をつけたが、家庭で本を開く（読書をする）習慣をどのように付けていくかが課題である。
		⑨ 外国語活動教育の充実 ・ALT活用とT T指導による指導力向上 ・学びの場づくりと場面設定	○ALTの配置計画を作成し、各学年その計画をもとに打ち合わせを行い、見直しをもって実施することができた。3年生の学習に関しては2教室分別振り計画し、密にならない授業運営を行うことができた。○ALTの協力もあって、子ども達にとって楽しく、充実した外国語活動を行うことができた。
		⑩ 情報教育の充実 ・プログラミング教育への対応 ・PCやタブレット操作の習熟 ・ネットモラルの指導徹底	○理科「電気と私たちの暮らし」でメッシュを活用したり、外国語でフローチャートを用いた発表の構成を考え整理し、それを基にパワーポイントを使ってのプレゼンテーションを行ったり、必要に応じて単元でICTを活用することができた。○週1回程度eライブラリに取り組む学級が増えた。□家庭でのeライブラリの活用を考えていきたい。
心身ともに健康でがまん強い子どもを育てるために（体）	読書習慣の確立へ（生活習慣の確立）	⑪ 「いのち」の教育の推進 ・いのちの全体計画 ・安全教育 ・防災訓練 ・見守り隊との連携 ・安全マップ	○地震や火災、水害についての避難訓練を行い、安全意識と判断力の向上を図った。○PTA主体での安全マップ作成配付、定期的な通学班長会等により危険予測と関連させた安全指導を迅速に行った。・感染症予防に留意し、来年度は保護者への引き渡し訓練を実施したい。○新型コロナウイルス感染症拡大防止に関わる衛生指導を通し、自他の「いのちを大切に」する気持ちの育成に力を入れた。○薬物乱用防止教室等を実施し、心身を大切に指導を行うことができた。□食後の歯磨きを行えない。
		⑫ 教科体育を核とした体力・運動能力向上の取組 ・体育授業の充実 ・運動の日常化 ・体力運動能力の向上	○感染症予防を図り、各学年工夫をして様々な運動領域の学習ができた。また、運動会では新しい様式を取り入れ、感染症や熱中症を予防して開催することができた。○新しい雲梯を設置していただくなど、校庭の整備が進み、外で元気に遊ぶ児童が多くなった。□今年度は、水泳や相撲の授業を行うことができなかった。来年度の実施方法を検討する必要がある。
		⑬ 校内外の積極的な生徒指導の充実 ・基本的生活習慣の確立 ・規範意識の向上 ・児童会活動	○登下校時のトラブルや問題行動等、個別に対応し、職員間で共通理解を図りながら、随時指導してきた。○生活リズムを整えるため、年間3回の長期休業明けに、家庭と連携しながら生活リズムを整える取り組みを行った。自分の生活を見つめよりよく生活しようとする意識が高まってきている。□規範意識を向上させるために、予測して行動する力・自分で考えて行動する力を付けるための指導が今後も必要である。
		⑭ 教育相談活動の充実 ・心のアンケート等の細やかな児童理解 ・共通理解、関係者面談、ケース会議	○心のアンケートの定期的な実施により児童の変化を捉える機会となった。悩みを書いた子供と面談し、対応することができた。□アンケートが連続してある時期にどうしていくか、○管理職に面談に入っていたことなどで、保護者の意識が高まり、医療機関に繋ぐことができた。□教育相談員との相談内容を教職員で共有できるようにする。
		⑮ 幼保小中連携教育の推進 ・意図的、計画的な交流学習	□コロナ禍の状況で幼稚園や中学校との交流は限定された。次年度もこの状況は続くと思われるので、必要な情報をピンポイントでも確実に伝え合うことが大切だと思う。
		⑯ 環境教育 ・「さくらんぼISO」清流の里おとみ ・イバラトミヨの飼育活動	○イバラトミヨの飼育活動や小見川や荷口川の水質調査、外部講師を招いての学習など、様々な観点で環境教育を実施することができた。○長期休み中のISOチャレンジや、毎月のクラスISOチェックなどを通して、物の使い方や環境に対する考え方を振り返ることができた。□感染症予防の観点からベットのボルトキャップやアルミ缶のリサイクル活動を行わなかった。・感染症予防対策を行い、来年度はリサイクル活動を計画していく。

学校関係者評価委員会から

- ・授業を参観すると、子どもたちは非常に落ち着いて学習に向かっている。
- ・新型コロナウイルス感染症に係るいじめや中傷について、道徳での指導や教室掲示などよかった。
- ・これまでと異なり、現在は、学校生活が子どもの交流の主な場となっている。学校で子どもが成長する時代となってきた。
- ・地域でのあいさつの声が小さくなったと感じる。
- ・地区でも様々な行事等が中止になる中、地区の歌者へ寄せた児童からの手紙が非常によかった。これからも継続してほしい。
- ・ホームページや学校便りで子どもたちの生き生きとした姿の情報発信がよくなされている。マメルによる行事の進捗状況も配信され、ありがたい。
- ・コロナ禍での個別訪問や学童での学習指導等非常にありがたかった。この状況下でも、「これならできる」という活動を行ってほしい。
- ・「なぜ～なるのか」根拠をしっかりと考える、深い学びになる授業は大切である。
- ・読書活動への工夫した指導の継続をお願いしたい。
- ・SDGsに関する学習への取り組みは？
- ・ICT教育をぜひ推進してほしい。
- ・ICTの整備が進んだことはよかったが、その安全やリスクについての指導や啓発等必要であろう。
- ・この冬は雪が多く、なかなか除雪に関しても万全な体制がとれないだろうが、安全に登校できている。
- ・1区マールン食堂前の信号待ちでの密な状態が、このごろ改善されたようだ。防犯ボランティア等と連携し、地区でも見守りを継続したい。
- ・通学班のメンバーや登下校時刻等、何か情報がかかるようなものがあると、見守り活動の参考になる。
- ・マラソン記録会や運動会等、子どもが個々にめあてをもって取り組ませたことはよかった。
- ・生活リズム等へのますますの取り組みをお願いしたい。
- ・担任だけでなく様々な先生から支援指導してもらえるのはよい。